

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-08-12

<訂正と追補> 前号拙稿「ベルリン・吐魯番 コレクション中のコータン人名録 (Ch3473) をめぐって」補訂

小口, 雅史 / OGUCHI, Masashi

(出版者 / Publisher)

法政大学史学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政史学 / 法政史学

(巻 / Volume)

68

(開始ページ / Start Page)

113

(終了ページ / End Page)

119

(発行年 / Year)

2007-09-30

〈訂正と追補〉

前号拙稿「ベルリン・吐魯番コレクション中の

コータン人名録 (Ch三四七三) をめぐって」補訂

小口雅史

本誌前号(『法政史学』六七号・二〇〇七年三月刊)に掲載した拙稿「ベルリン・吐魯番コレクション中のコータン人名録 (Ch三四七三) をめぐって」について、校了後、実測図や釈文等に若干訂正すべき点が見出され、またその後の大英図書館での古文書調査(前号拙稿で触れた科学研究費による調査。二〇〇七年三月実施)にて、前号拙稿で紹介した麻扎塔格(Mazar-Tagh)出土文書「唐羯陵捺等残文書」(Or.8212/723 M.T.0627)や巴拉瓦斯特(Balawaste)出土文書「唐抵伽瑟拱支納抄」(Or.8212/703 Balaw.0162)について

も実見の機会を得、またさらに、吉田豊「コータン出土8—9世紀のコータン語世俗文書に関する覚え書き」(神戸市外国語大学研究叢書)38、神戸市外国語大学外国語研究所、二〇〇六年、一三四頁)で指摘されていた漢文とのバイリンガ

ルの関係文書 Or.12637/56.1a-d (吉田氏が依拠している Skia 20 の目録では確かにそう記載されているが、断簡群を挟むガラスケースには Or.12637/56a-d とあり、現実にはその番号で出納できるので、以下、Or.12637/56a-d と表記する)をも実見できたので、それらの成果をあわせてこの場をかりて紹介したい。

最初に前号に掲載した実測図であるが、トレース時に割註一カ所を漏らしていた。B 断簡の二行目(「而索……の行」)の最下部である。前号拙稿図1および図3に加筆する必要があるが、一四頁に、復原された音註漢籍面を例に訂正版を掲載しておく。また前号拙稿で触れたように、コータン人名録面には朱点がある。今後の研究の便をはかるために、具体的にそれを示した実測図をあらたに一一五頁に掲載しておくのであわせて参照されたい。

次に当該文書の釈読について、若干の誤植があるので訂正されたい。

- 二二頁上段後ろから三行目 其音 ↓ 其声
- 二三頁下段八行目 同右
- 二五頁上段後ろから四行目 許 ↓ 許
- 二五頁下段一行目 婆 ↓ 婆

また?を付けた文字で、読み切つてよいと思われるものも若干あるので、コータン人名録面について、あらためて以

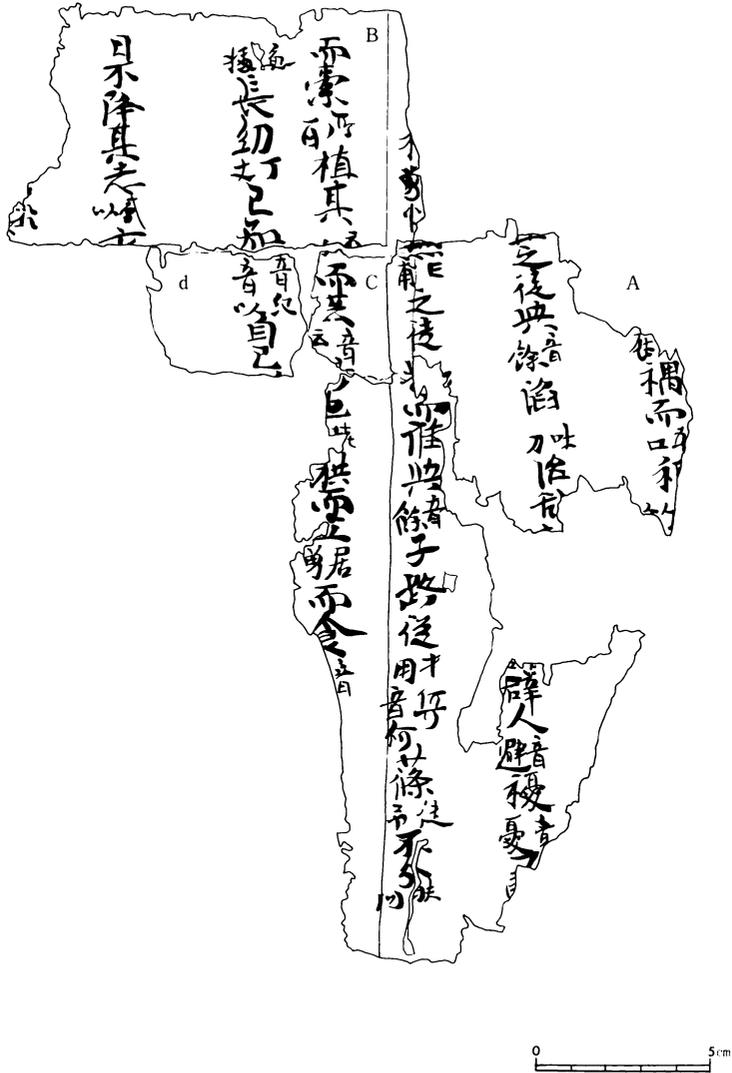


図3 訂正 復原された音註漢籍面 (verso か)

「前号拙稿「ベルリン・吐魯番コレクション中のコータン人名録（C 五三四七三）をめぐって」補訂（小口）」

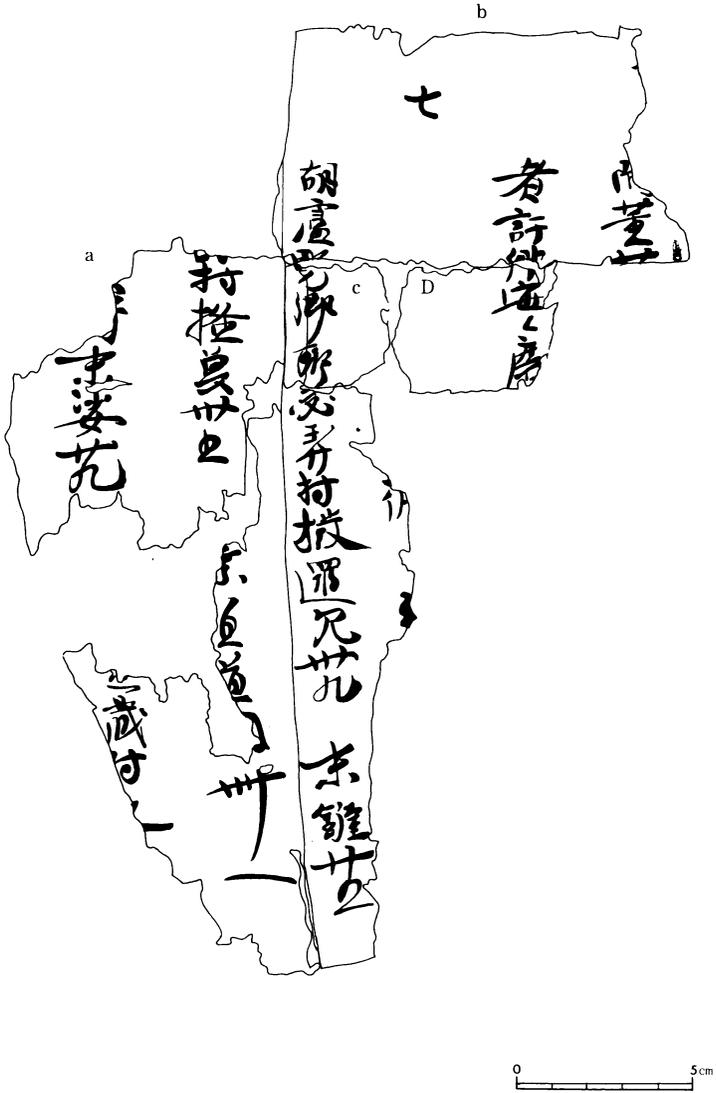


図4 加筆 復原されたコータン人名録面（recto か）



写真3 Or.12637/56.a-d コータン人名録 現状表面写真

© The British Library. All Rights Reserved

前号拙稿「ベルリン・吐魯番コレクション中のコートタン人名録（Ch三四七三）をめぐって」補訂（小口）



写真4 Or.12637/56.a-d コートタン人名録 現状裏面写真（右
頁の表面と対象させて配置）

© The British Library. All Rights Reserved

下に釈文を掲載する。

□董廿□

者許郷實慶□

七

胡盧野郷耶瑟弄村撥邏兄卅九 末錐廿五

□村□□卅五 □道□卅一

□末婆廿九□□藏村□□

朱点は一行目の「廿」の横にかなり太く目立つものがあり、また四行目の「弄」の横にごく小さいものがある。

また大英図書館での実見によつて、麻扎塔格 (Mazar-Tagh) 出土文書「唐羯陵捺等残文書」(Or.8212/723 M.T. 0627) の釈文(「斯坦因—第三次中亚考古所獲漢文文献(非佛經部分)」①による)の内、前号二五頁下段六行目の「付」については、「村」とすべきものと思われる。これによつて「唐羯陵捺等残文書」と本文書とは、より親近性を増すことになる。

次に、本稿冒頭で触れた Or.12637/56.a.d について論及しておきたい。写真はまだ国際敦煌項 II DPP の HP でも公開されていないので、一一六頁以降に表裏面とも掲載しておく。

吉田豊氏が述べているように、この文書については、す

びに P.O.Skjærvø の目録 *Khotanese manuscripts from Chinese Turkestan in the British Library: a complete catalogue with texts and translations*, London: British Library, 2002 の一四一頁におおむね Dumagu 0141: KT V, p.266 (563) の List of workmen として紹介されている。

ここではコータン語部分についてのみ釈読されているので漢字部分については別途釈読する必要があるが、例によつて難読であり、正確な釈文については後日を期したい。ただ一番大きい a 断簡については、おおよそ以下の通りである。

□村戸伊□本卅一 男分□

楔姿五十四 戸瑟你卅一

□杷五十□

この文書にも数字の部分については、すべて朱による書込(?)ないし朱点が施されており、Or.3473 と同じく年齢照合のような作業がなされるべき文書であつたらしい。

P.O.Skjærvø によるコータン語の釈読とつきあわせてみると、漢字部分はコータン語を音写したものであることが推測される。ただし注目すべきは数字についてで、一行目に対応するコータン語は 402、二行目に対応するコータン語は 505 と 402 であるという(三行目はコータン語部分

が欠落。P.O. Stevens の訳読中には55という数字を持つ断簡があるようなので、あるいは他の断簡のなかにa断簡と接続するものがあるかもしれない。ただし555ではないので関わらない可能性の方が高いか)。すなわちおおむね漢字の方が数字が一つ小さくなっているわけであるが、この理由については現時点では成案を持たない。コータン語やコータン史の専門家の見解を待ちたい。

以上、取り急ぎ前号拙稿を訂正するとともに、関連する文書を追加させていただいた。筆者はコータン語についてについては全くの専門外である。関係識者のご教示を仰ぐことができれば幸いである。

〔付記〕

前号掲載拙稿について種々ご教示いただいた吉田豊氏、辻正博氏、また大英図書館での文書閲覧及び写真入手に種々御配慮いただいたE.Wood女史に対して末尾ながら厚く謝意を表します。

なお前号拙稿註(4)その他で触れた、法政大学国際日本学研究所で公開している「在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書デジタルカタログ <http://atenui.hosei.ac.jp/oguchi/berlin/>」も大幅に構造を改訂した。その理由は、註(4)に記した国際敦煌項目IDPによって、ベルリンの漢文コレクション(Chナンバーのもの)の

デジタル写真がほぼすべて公開に到ったからで、右記データベースではその画像へのリンクを張る形で再構築した。これによって、IDとパスワードで画像を保護する必要がなくなり、ゲストアカウントで右記データベースに入っても、きちんと画像が表示されるように変更されたので是非参照されたい。なおこのデータベース構築過程については、近刊の「漢字文献情報処理研究」八号(二〇〇七年十月)誌上拙稿で詳論する予定である。